



応募論文から

ガールズ・サミット賞

母の背中を追って

柳井学園高等学校 2年 浅田莉桜花(SI 柳井 推薦)

私は、将来看護師を目指しています。私が看護師を目指したきっかけは母です。看護師である母の職場と一緒にいく機会が何度かありました。日頃から優しい母ではありますが、どこか違った優しさで様々な人と接していました。母の元に相談をしに来る看護師に対し、適確に指示を出す姿は、幼かった私にはとても格好よく映り、真顔で座っていた患者さんは、母と関わった瞬間魔法がかかったように笑顔になり、今でも鮮明な印象として残っています。

看護師にはコミュニケーション力が必要だと私は思います。患者さんやそのご家族の思いを引き出し、それを様々な医療関係者に伝える。その力は患者さんにとって良いケアに繋がります、それは結果として患者さんの笑顔を引き出す鍵にもなると 생각합니다。しかし、今の私は対面で話すことがあまり得意ではありません。友人と話していても、最後まで話を聞かず途中で意見を言うてしまうこともあります。患者さんの思いをしっかりと聞くためにも、今、私ができることは、日頃から相手の話を親身になって聞き、相槌や共感的態度で関わる事です。相手をもっと話したい、あなたになら伝えたいと思ってもらえるよう、校内実習や日頃の会話を今までよりも意識して行動したいと思います。

今、看護師の離職率が増加しています。看護師不足のため、医療・看護の質の低下が懸念されています。共働きで、母は病院に緊急で呼び出されることもありました。しかし、仕事に行く母の姿はとても頼もしく、格好よくもありました。私が目指す看護師像は、まだ明確に確立されていません。しかし、いつの日か私も母のように、患者さんに沢山の笑顔を届けられるような看護師になりたいと思っています。そのため、日々の勉強は大変ですが、同じ夢を目指す仲間達と切磋琢磨して頑張っています。